

知事広聴「平太さんと語ろう」 記録

【日時】平成30年2月16日（金）

午後1時30分～3時30分

【会場】小山町総合文化会館

1 出席者

- ・ 発言者 御殿場市及び小山町において様々な分野で活躍中の方
6名（男性3名、女性3名）
- ・ 傍聴者 100人

2 発言意見

番号	分野・所属	項目	頁
発言者1	地域活性化	ヒーローの街としての地域活性化	2
2	国際交流	国際交流のニーズ	4
3	福祉	地域における福祉理美容活動	11
4	農業	地域農業への支援	12
5	移住	芸術家の移住	20
6	地域振興	地域資源を活かしたおもてなし	22
傍聴者1	福祉	待機児童問題と出産後の母への支援	31
2	安全	沖縄基地の負担軽減	33

【川勝知事】 皆様、こんにちは。今日はこちらの方で知事広聴会を開催することができまして、大変うれしく思っております。

皆様方、広聴会というのは、演説をすとか、こちらで報告をするというのじゃなくて、広く聴くというふうにかかれておるとのことでございます、こちらの抱えていらっしゃる問題、あるいはこちらがやっということで、私どもが知っておくべき事柄につきまして、できる限り多くのことを吸収しまして、それを市町の発展のため、また県政の発展のために活かすということのためのものであります。

じゃ聞くだけかという、違います。お聞きしたことは、もしそれが課題があった場合には、その課題を解決しなくちゃいけませんので、解決するためには意思決定が要りますが、その意思決定することのできる者と一緒に来ております。どれ1つとして聞きっぱなしにしたということは、今まで54回、こういう広聴会をやっておりますが、1つもありません。もちろんできないものもありますけれども、なぜできないかということも含めて御説明を申し上げて、きっちりこの広聴会の結果を出すということをしております。

今日いただく御発言などにつきましては、きっといいお話があるに違いないと思っております、もし解決を要するものがあれば、我々の方できちっとそれをして、皆様方の福祉、あるいは魅力の向上のために役立てたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

【発言者1】 皆様、こんにちは。私、御殿場市在住の発言者1と申します。

私は、まず仕事ですけれども、精肉業、肉屋を営んでおります。それと加えて、食肉加工業ということで、いわゆるハム・ソーセージの製造にも携わっているわけですし、そんな中で静岡県とのつながりといいますと、私県立高校を卒業したので、高校は県で、あとは食品を扱っていますので、県の保健所の方が1年とか2年に1回ぐらい立ち入りで見られて、ああだ、こうだ言われているみたいな、なんていうところが私と静岡県との直接な関わりだったのかななんていうふうに、今までは先入観的に思っていたんですけれども、昨年度お世話にいろいろなったことがありまして、そんな話をさせていただければと思っています。

まず仕事の方は、御殿場の商工会さんの方から御案内を最初にいただいたんですけれども、小規模企業経営力向上事業費補助金というやつですね、これを県の方に申請させていただきましたところ、無事申請が通りまして、補助金をいただくことができました。これ

で弊社として何をしたかといいますと、熟成の冷蔵庫を買わせていただいたんですね。

それは何かといいますと、熟成の、今CMとかテレビとかで御覧になったことがありますか、熟成肉とか、うちはハム屋もやっていますので、そのハムをそれに入れてみたりとかして、生ハムとか、サラミとか、そんなようなものを新たにつくらせていただきまして、去年暮れから販売させていただいてまして、今のところ好調に滑り出せたんじゃないかなというふうに考えているところでございます。

これもやっぱりこの補助金という媒体がなければ、私もちょっと尻込んでしまっていたかもしれない分野だと思いますので、静岡県のようなシステムに感謝したいなというところでございます。ありがとうございます。

引き続き、この補助金を使ってホームページなんかでもリニューアルしてまして、その辺も、弊社のみならず、この地域が活性化できるようなビジネスというか事業を繰り広げていければなんていうふうに考えているところでございます。

それから、うちの会社の件に関して、もう1点、静岡県さんの方にお世話になりましたことがありまして、お配りの紙にももしかして書いてあるかもしれないんですけども、私、昨年度御殿場青年会議所、いわゆるJCという会議体の団体なんですけれども、そちらの理事長をやらせていただきまして、その1つのイベントということで、静岡ブロック大会というのが、平たく言うと県大会というのがあるんですね。それを御殿場JCとしても何かできないかということで考えましたところ、御殿場市長、それから小山町長と私と3団体で主になって、ヒーローフェスティバル実行委員会というのを立ち上げまして、この御殿場、小山の地をヒーローのまちにしておもうじゃないかなんていうイベントを考えたんですね。

やっぱり何が必要かというところで、より大きな大会にするには資金がもっとあった方がいいんじゃないかということで、行政の方と打ち合わせさせていただいたところ、静岡県の出している助成金で、市町フレンドシップ推進事業費というのがありますよということで、県と掛け合わせていただいて、無事助成金がおおりて、ちょうどこの9月に富士スピードウェイでヒーローフェスティバルということでやらせていただく運びとなりました。

そんな中で、ヒーローのまち御殿場・小山で我々がやったのは、伊奈半左衛門という御存じの方もいらっしゃるかと思うんですけども、御当地の富士山の宝永噴火からこの辺の御厨地域を救った当時のお侍さんがいるんですけども、そちらの伊奈半左衛門をモチーフとして、子供たちに名前を公募してもらったり、デザインを応募してもらったり、集

めて、それで選ばれたのが「イナハンザー」というニューヒーローが生まれたということで、本日イナハンザーが来ていますので、ぜひお越しいただきたい。イナハンザー、皆さん、呼んでいただけますか。「イナハンザー」、すみません、冗談です。失礼しました。

本当はそんなことを予定していたんですけれども、イナハンザーの中身をやってくれる方が今日都合がつかないということで、またぜひとも県庁の方にお邪魔できればと考えているんですけれども、一応そんなことで去年は本当に県の方にお世話になった1年間でありまして、そんなことも我々会としては何も知識がなかったので、いろんな行政だったりとか、市町だったりとか、あとは商工会さん、観光協会さんとか、いろんな方の支援をいただきながら、そんな知識も得ながらやらせていただいた1年だったんじゃないかなというふうに考えています。

また、そのイナハンザーですけれども、今後も根本としては我々もそうですけれども、これから大きくなっていくお子さんたちに、この御殿場・小山の地域で目立った昔からのヒーローというのは、明治維新だったりとか、戦国時代だったりとか、何か際立ったヒーローというのはいなかったんですね、掘り起こそうと思ったときに。そこでやっぱり伊奈半左衛門に白羽の矢を立てさせていただいて、その彼をヒーローに祭り上げたところなんですけれども、そのヒーローを子供たちに、例えば就職でとか大学で東京に行っちゃったけど、帰ってきたいなというまちづくり、そんなことを目指してやってきている、これからもやっていくんじゃないかという団体が、その青年会議所ということになります。

ということで、私からは本当にいろいろお世話になったなということのお話をさせていただいたところでございます。以上です。ありがとうございました。

【発言者2】 皆さん、こんにちは。御紹介にありました発言者2といます。道の駅の近くに3世代8人家族で住んでいます。

私がこの国際友好協会に入りましたのは、自分の学生時代の貧乏旅行に発端があったと言えます。40年前ですので、今のようにメールで、思い立ったときにすぐにエントリーするというふうなことができませんので、行こうと思った、その大学に入って間もなく位から、アルバイトで幾ら何月何日までには貯めるんだ、その金額の設定、そしてじゃどこにお世話になろうかなと、まず最初から図々しいことを考えました。足りないところは教授の知り合いに頼んだりとかして、そこから1年かからなかったと思いますけれども、半年くらいは一生懸命手紙を送り、またその連絡をもらって、またもう1回、何度も何度もや

れる限り、出発まで手紙での準備をしていきました。

今でいうところのホームステイに4軒ほどお世話になったわけですが、友達もいたところの大学の寮に泊まったり、あと78歳というか、もしかしたら80過ぎていたかもしれないんですけども、御婦人が一人暮らししているところにお世話になったり、あとは私と同じ20歳前後の男女3、4人が住む、今テレビでやっているようなシェアハウスにやっぱり泊めてもらったり、やはり知り合いがアリゾナ大学の寮ではなくて、やっぱり向こうにも下宿があるんですね。その中国系アメリカ人の方がやっている下宿に、夏休みだからお部屋が空いているよということで、そこに泊めさせていただくこともあります。どれも生活スタイルがあまりにも違うので、行くたびに戸惑いもありましたけれども、後とってみると、それもまたとても楽しい良い思い出になりました。

そして何よりも世界観といいますか、価値観みたいなものが変わって、生きていく自信といいますか、これでもなくちゃいけないというふうじゃなくて、いろんなことを自分で受け入れる力というのでしょうか、そういうものがそのときについたような気がします。

そういうオンリーワンの体験ができたので、その楽しさを小山に戻ってきたときに、この小山で少しでも多くの人と共有し、そして自分の子供だけじゃなく、次の世代の子たちにも小山町の中でも世界を身近に感じることができるといえる機会を少しでも多く持ちたいと思って入ったわけです。

小山町国際友好協会、通称O I F Aは、今年で28年になります。毎年やっている活動は、富士学校に留学生が、留学生といっても高校生とか大学生ではなくて、軍人さんとして、官僚として働いているような方たちですけども、そういう方たちがパキスタンやミャンマーだとか、韓国から毎年いらっしゃいますので、その方たちをお迎えして交流をします。そして在外外国人を招いた世界料理教室の開催ですとか、広報おやまを通じての紹介、そして人気があるのが世界のグルメツアー、中高生を対象としたスピーチコンテストの開催などです。

そしてカナダのブリティッシュコロンビア州のバンクーバーから南の方に70kmほど下ったところにミッション市というのがありまして、そのミッション市と姉妹都市提携をして22年になります。ここは滞在型の交流をしています。大体2年ごとに交互に行き来をして、親善訪問をしています。行政や教育関係、そして文化連盟、観光協会や商工会の方々に一緒に行っていただき、そこに町民も交わって、大体20人前後で行き来をしています。

こちらからは大体カナダデーというのが7月にありますけれども、そういうときにお邪

魔する機会が多かったかと思えますけれども、そこで文化連盟の方が踊りができるとかというふうにしたら、とても喜んでいただけますし、こちらから行ったお土産をいろんな世界の方たちがそこでプレゼンテーションして、ミッション市の方たちと触れ合いを持っていただいています。

ミッションの方たちがこちらに来るときには、文化祭がある小山町では、10月中旬に来ていただいていますので、そこでは舞台に上がって、向こうの歌や踊りや、ちょっとした寸劇などを交えて、町民の方たちに広く知っていただくというふうなことができています。

以前、東日本大震災があったときにも、ミッションからすぐにメールが届きまして、O I F Aと同じようにM I K Aという団体がミッションにもあります。手作りカレーパーティをミッションの役員の方たちが開いてくださりまして、そのときにカナダドルで4,000ドル、日本円で約38万円もの金額をO I F Aの方に寄付金として送ってきてくださいました。

O I F Aから、そのお金は町長から赤十字という形で被災地の方たちに送ることができたわけですが、私たちが寄付金を集めているよりも早かった行動には大変感心いたしましたし、それだけもう私たちの友好関係が深まっているのだなというふうなことを感じた次第です。

次の世代を担う中高生の派遣というのも、最初は弁論大会の優秀な生徒だけを派遣していました。20年間ほど2、3人の子供たちを送っていましたが、ここ最近3年ほどは、自主的にいきたいというふうなお子さんたちが、残念な思いをしてきた子供たちがたくさんいましたので、少しでも多くの子をとということで、6人ずつ、御家庭の協力も得まして、送っています。

先月も3回学習会というのを開きまして、英語力を磨いたり、行く準備に料理の腕前を磨いてもらったり、それを英語で説明ができるようになるというふうなことも一緒に勉強しながら、3月春休みに10日間ほど行ってまいります。とても子供たちも楽しみにしています。向こうに行けば、ホストファミリーが同世代くらいのお子さんがありますので、中にはこちらの方に来たときに、またその向こうのお子さんを受け入れてくれるような方もいらっしゃるまして、長い親戚付き合いのようなものができるということを期待し、目指しているところです。

私たち、私も含めて、ほかの会員、役員たちがこのO I F Aを長く続けてこれたというのは、本当に自主的に、堅苦しく考えずに、自分のできることをできるだけ楽しんで、と

にかく楽しむことが一番だったと思います。そうやって続けてきたことが長続きさせてきたんだと思います。

設立 28 年というふうにはさっきも言いましたけれども、この 30 年弱の間に滞在型の交流に関しては 74 名のミッション市民、そしてミッションの学生さんは 67 名、小山町のホストファミリーが受け入れをしています。このような実績を持って、私たちが改めて頑張ってきたなというふうなことを感じていますが、外国の人たちと日常生活を通じて、お互いの生活に根付いた文化の違いを知り、理解し合うということは、大変楽しい学びでもあります。

うちに 3 人ほどホームステイをしましたが、英語がしゃべれない私の母ですら、一生懸命何かを伝えようとして、それで向こうも英語とか、身振り手振りでやるわけですけども、帰った後、あの人はこう言っていたよ、こんなふうなことを教えてもらったよというふうには、もういかにも英語でしゃべり合ったのかなというふうなことを、他人が聞いたと思うような触れ合いをすることができます。それは母にいつかカナダに行きたいなというふうな意欲みたいなものも育んでいたような気がします。

このような生活に根差した気づきや学びというのは、教科書やネットでは得られないものです。つたない英語やつたない日本語で身振り手振りでやり合っている、お互いに理解しようという気持ちがあるので、コミュニケーションもとれますし、心のつながりがそのたびに深まっていくような気がします。

海外旅行も、観光地を巡るタイプのものから、最近は体験型の自分だけの楽しみ方ができるような旅のスタイルに人気があるようです。ホームステイはまさに体験型の旅行だと思います。このたび、小山町がオリンピック・パラリンピックの自転車ロードレースの会場に選ばれて、驚くと同時に、大変喜んでおります。特に子供たちには、間近で生きた国際理解やおもてなしを体験することで、大きく成長することだと思います。小山としても来るオリンピックを官民一体となって盛り上げていきたいと思っています。

今、小山で活動していて悩みや課題もあります。それは私たちの役員だけの問題かも知りませんが、時代に即した情報の発信技術をもっと身につけていられたらなというふうには思います。ホームページは持っているんですけども、なかなかそれをどんどん更新していくということがもどかしくあります。フェイスブックでも本当はどんどん紹介していきたいのですが、なかなかそこに取りかかっているけません。助成金の削減もあつたりとかすると、予算的にも活動内容が毎年見直しというふうなことが、ここ数年続いている

るような気がします。

そして人口の減少があると仕方ないかもしれませんが、お子さんが高校卒業して、大学を卒業するというふうになると、自然と会員数も減っていくところもあったりですか、御老人の一人暮らしの方でも会員になっていただいたりすると、どうしても会員数を維持していくということも難しいところです。

そしてよく、もう10年くらい前から若返りをというふうに言われますが、止めることができませんので、役員の後任者探し、若返りというふうなところが課題といたしますか、悩んでいるところです。

それでも、今O I F Aの事務局は町長戦略課にありますので、O I F Aの事務、運営管理に関しては本当に助かっておりまして、心強い限りです。さらに、ほかの関係部署や関係機関とも連携を強化していき、若い世代の職員の方にも国際交流を楽しみながら参加していただき、理解と専門性を培っていただけることを期待しております。これをお願いとして終わらせていただきます。ありがとうございました。

【川勝知事】 御殿場の発言者1さん、また小山町の発言者2さん、どうもありがとうございました。お2人とも今の仕事を一生懸命されながら、仕事をどのように次世代につなげていくかというところで共通していたんじゃないかと思いますが、発言者1さんは精肉をされていらっしゃるということで、うちの補助金を上手に活用されて、熟成肉だとか、またホームページのリニューアルに活用していただきまして、誠にありがとうございます。補助のし甲斐があったものだというふうに思っております。

そしてまたJ C、なかなかJ Cというのも、1年で理事長は交代しますね。その間に計画を立てて、それを実行するというので、短期決戦型ですけれども、ヒーローフェスティバルというのを立ち上げられて成功されたというのは大変よかったじゃないでしょうか。しかも伊奈半左衛門というところに注目されて、イナハンザーというのは、呼びやすいし、今にも出てくるような感じで、リングに上がってくるような感じでしたが、今日はあらわれなかったですけども、とにかく、そういうイナハンザーというような形でこちらが生み出してきたリーダーを継承していく。そしてリーダーになれよというふうに励ましていくという活動はすばらしいと思います。

それからまた今若い青年たちは、やはり自分たちが10代の後半ぐらいになると、親元から1回離れて世界を見てみたいというふうに思うんじゃないでしょうか。ですから外に出

ていくのは私は止める必要はないと思いますけれども、戻ってきたいと思ったときですね。

あるいは30くらいになっていい人を見つけたと。その人と結婚すると。そうすると、どこに住むかとかいうことを考えたときに、お父さんとかお母さんとか、おじいちゃんとかおばあちゃんとか、友達とかということに思い至って、さあこれからどうしていいかといったらときに、あっ家でも仕事ができると、今まで数年間培ってきた自分の経験が活かされるといったときに、帰ってこれるようにしておきたいなということで、私は「30になったら静岡県」と。1回出ていくのはいいと。戻ってこれるようにと、そういうふうにイナハンザーとして何か迎え入れるような、そういう仕組みができていけばいいなということで、この発言者1さんのような方が青年会議所の仮にこちらの御殿場の文化風土ということであれば、ぜひ小山町と一緒に組んで、これはつなげていただきたいなというふうに思いました。

それから、やっぱり発言者2さんは若いときに外に出られたというのが大きいということですね。20歳前後に出て、海外に行っているいろんな体験を積まれたと。それが今日の発言者2さんの国際交友協会における28年という実に長い年月の国際友好の実を上げてこられたものに結びついているということは、これはやはり多くの人にそういう経験をなるべく平等に提供できないものかと。

ですから私は、全員が高校に行くわけじゃありませんけれども、高校に行けば3年間は勉強しなくちゃいけませんけれども、そのときに全員パスポートを、小山町並びに御殿場出身の方の高校では、持って、そう遠くない外国に行って、一度外国の空気を吸うというふうなことをするようなことがあれば、国際友好協会のこういう志も裾野が広がるんじゃないかなというふうに思いました。

それからまた海外に行くというのは、物見遊山じゃなくて体験型だというふうにおっしゃいましたけれども、こちら的小山町や御殿場における生活体験をさせてあげるというのは、我々にとっては日常ですけれども、豊があるということ自体、あるいはごはんがこんなにおいしいということと、それから水かけ菜のようなものは、きれいなところでしか育たないということ。

また御殿場のビールは、何だ、こんなうまいビールがあったかと、ドイツのビールよりうまいじゃないかと、何といても富士山があるとか、こういう景色を一旦向こうの人が来て、その日本人の生活の中で清潔感だとか、安心だとか、安全だとか、コミュニティができてるとか、こうしたものは一生の宝物になると思うんですね。ですからあまり背

伸びをしないでホームステイをさせることができるような、そういう小山町、御殿場市の市民生活であってほしいなど。

何しろ3世代で一緒に住まわっていて、おばあちゃんはその外国語ができないけれども、コミュニケーションができたと言われる。ですからわざわざ和式の簡易トイレだったら、それを洋式にしないでいいとか、布団はまた新しく買い替えなくていいとか、そんなことではなくて、海外に行くともっと不潔ですというか、おかしいですけども、日本ほど清潔な国はありません。

ですから、日常のままで、若干の数日間を、こちらがいてみればホストですから、すべて主導権を握っているわけですから、向こうの方にこれをこうするんですよと教えて差し上げればいいわけで、そういう形での国際交流がもっと進めばいいなど。

その契機は、こちらのスピードウェイが自転車のロードレースのゴールになるということになりまして、そして2年前から小山町長さんがイタリアにも行かれまして、フリウリ＝ヴェネツィア・ジュリア州という静岡県と同じ大きさで、人口も変わらなくて、ゾンコランという低いですけども、その頂上からはすばらしい眺望を眺めることができ、それが向こうの人にとっては富士山と同じぐらい美しい景観だと、だから兄弟関係になりたいたいという人が、ヒルクライムでこっちに来ておられるんですね。また今年の秋にも来られるということもございます。ですから知らないうちに国際化している。

御殿場の方は御殿場で、昔からこれは有名ですけども、今はもちろんアウトレットとかに訪れる数はものすごいものではあります、それにとどまらず、いわゆるエコガーデンシティということで、リコーが研究所を再開して、協定を結ばれていると。私はこれ真似をして県もやろうかと思っているくらいです、リコーさんとですね。あるいはJAXAと協定を結ばれて、まさにいってみれば東京を通り越して、宇宙に開かれているというとおかしいですけども、地球単位に広がっている地域になっているんですね。

それが小山町と御殿場市の共通するところじゃないかと思います。そういう枠組みがあるので、この発言者2さんがこれまでしてこられたような開かれた多文化、つまり多民族の肌の色が違う、宗教も違う、だけど差別しませんよと、一緒に生活できますよと、それぞれの風習は大事にしますよというふうな、まさにこっちに来たら別世界広がっていて、桃源郷じゃないかと。今でも桃源郷ですね。

明確な季節があって、季節ごとに味わいも違うということでもございまして、このお2人、それぞれ青年会議所と国際友好のリーダーとして、これからもこの活動がお仲間と、それ

から次世代に、ここにいらっしゃる人たちに共有されると同時に、引き継がれていくなど、そういう印象を持ちました。みんなで支えていきたいものだと思った次第であります。どうもありがとうございました。

【発言者3】 よろしくお願ひします。私は小山町内で美容室を営んでいます発言者3と申します。

今、私が取り組んでいる活動は、福祉理美容師という、訪問で、おうちで困っていらっしゃる方のところへお伺ひして、カットをしたり、カラーをしたり、きれいになっていただくような活動をしています。その活動が始まったのは平成28年10月に福祉理美容師になりましたが、座学を含めた実技的な講習を受け、突如としてNPOという壮大なプロジェクトの中に巻き込まれたというか、気がついたらその中にいたという感じなんですが、いろいろ気がついたら理事というところにもいるわけで、一生懸命やらなくちゃいけないなど、勉強不足の私たちですが、今一生懸命活動をしています。

ところが、小山町の人たちはというか、この界隈の人たちは、知らない人がおうちに来るといふことが、どうしても抵抗があるというか、なかなか受け入れてもらえないところがあって、1年半活動していて、なかなか浸透していかない、根付かないというところで、今ちょっと困っているところなんですが、日々勉強して、いろんなところでスキルアップをして、皆さんに喜んでいただけるような活動を一生懸命考えています。

今、主な活動は、老人ホームやデイサービスなどの場所へ行って、カットをしたり、要望があればボランティアでハンドマッサージやネイル、そういったことをさせていただいています。

去年からですけれども、ふるさと納税の一部で1万円の納税でカット、2万円の納税でカラー・カット、もしくはパーマ・カットということも小山町の方と一緒にさせていただいたり、夏祭りとか福祉イベントの方でもボランティアでマッサージをやったり、ネイルだったり、あとはエアスプレーでボディペイントのようなことをさせてもらっています。

会員もなかなか増えるということはないんですが、とにかく私たちは勉強が足りないということを今すごく感じていて、先日もいろいろと勉強させていただいたんですが、長く福祉理美容ということに関わっている人たちからすると、私たちはまだまだ勉強が足りないなど、ついこの間実感したところですが、今私たちの仕事は、どうしても美容室というお店を構えて、お客様を待っているだけだと、なかなかお客様から来ていただけるという

ことが減っているように思います。

遠かったり、バス・電車も上手に通っていなかったりするので、そういうところで美容室に通えないというお客様のために、私たちがNPOとして活動させていただいているんですが、お店で待っているだけではないやりがいか、喜んでいただけるというスタイルは、NPOに巻き込まれて始めたにしてみれば、楽しく仕事をさせていただけているんじゃないかなと思っております。

何か皆さんみたいに上手に話ができないんですけども、今は小山町の方から助成金をいただいて、何とか成り立っているような状態なんですけど、いつまでも甘えてはいられないとは思いつつも、今補助金がなくなったとすると、私たちの活動にも大分支障が出るなという危機感を持ちつつ、みんなで一生懸命勉強していますので、ぜひ皆さんにNPOで福祉理美容師をやっているということを知っていただいて、気軽に利用していただけたらいいなと思っております。

今日私はここでNPOを一生懸命頑張りますから、町長には助成金をこれからもよろしくお願いしますということをお伝えして、私の発表を終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。

【発言者4】 それでは、初めましての方が多いたと思いますが、かつまたファーム株式会社の発言者4と申します。

皆さんにお話を聞いていただくに当たり、僕も皆さんに聞きたいことがあるんですが、商品に自分の名前をつけて、「健太トマト」という名前で販売をしているんですけども、食べたことはないけど、聞いたことはあるという方はこの会場にどのぐらいいらっしゃるか、手を挙げていただきたい。恥ずかしがって遠慮している方がいるわけじゃないですよ、はい、ありがとうございます。それでも2割から3割ぐらいの方に手を挙げていただけたのかなと大変うれしく思っています。

私は現在42歳で、36歳までは県内の私立高校で高校の教員をやっておりました。そこで教員を退職して就農、農家になって、夏秋専門のトマト農家として農業を始めました。なかなか御殿場、小山で農業をやるのが難しい部分もあって、難しい部分は何かかという、僕が高校教員をやめて農業を始めましたという話をすると、概ねそれに対するファーストインプレッションというか、皆さんの反応は2種類にほぼ限定されて、ここにいらっしゃる方は御殿場、小山の方が多いでしょうから、多分似たような反応をされると思うんです。

知事、僕が教員をやめて農業をやるという話を聞かれた方が、主に僕にしたコメントが2種類だったんですけれども、どんな種類か？（「大丈夫かよ、とか」）そこまで優しくはなく、集約された2つが、まず「ばかだよね」というのが1つ。

高校教員という安定した仕事、それからこういう言い方もどうかと思いますけれども、ある程度社会的地位がある仕事をやめて農業、不安定で、特段社会的地位があるわけではない仕事に行くというおまえは大丈夫かということじゃなかったですね、「ばかじゃないの」という意見はものすごくいただきました。

もう1個、逆側面なんですけれども、あっこういうことも言われるんだって不思議に感じたのが、「偉いね」という言葉も多くいただいたんです。そこにもものすごい違和感を感じました。だって、仕事を選ぶことに関して、例えば御殿場市役所に勤務を始めます、「偉いね」と言わないですよ。学校の先生やります、「偉いね」と言わない。そこにはある種、滅びようとしている産業に殉職するような、何かそういうことなんですよね。「発言者4君、偉いよね」という、普通ではあり得ない職業選択に対するコメントをいただくことが多くて、あっこれが御殿場、小山の農業が抱えている問題なんだというふうに強く感じました。

実際、ここにいらっしゃる方で御存じの方もいると思いますが、私が42歳、私より上に10年、下に10年、本当はもうちょっと幅があると思うんですけれども、野菜の専業農家というのは実はいないんですね。いなかったんです、ずっと。

御殿場、小山の方はどういうふうに農地を守るかというと、概ねが御殿場市で1,400haの水田があります。東京ドームにして300個分ぐらいなのかな、かなり広大な面積なんですけど、兼業水稲農家が守っています。そしてほとんどが、こういう言い方がいいか、あまり納税者にならない程度の収入におさえる、そうやって土地を守っていくというのが続いていました。先ほどの話でも言ったとおりに、農業が一家の大黒柱がやる仕事として、子供を学校に出して育て上げてという仕事として、この地域で認知されていないという現状が、僕が始めたときにはありました。

これではいけないし、農の担い手は今後いなくなるよねということで、そこで自分の後に続く農業者が出てこようものならば、技術面も含めて、それからいろんな物の考え方も含めて支援できるようにということをつくったのが、Vege&Fru Innovation Gotemba-Oyamaという組織です。

現在ようやく4軒目の仲間が加わって、ハウスでの農業を主体とした農家が4軒にようやく増えたところですが、わずか4軒かと、中西部の農業に比べれば思うかもしれま

せんが、この地域にとって革命だと思っています。だっていなかったんですから、1軒も。ゼロから4になったというのは革命だと思っています。

とにかく技術面での支援というのがなかなか難しくて、何というんですかね、農業、例えば高知県のトマト農家さんに行って、「すごいですよね、視察していいですか」「いいですよ」「ああすばらしい生育ですね、これどういう肥料やっているんですか」「そんなこと教えられないだろう」という企業秘密的な部分が非常に多い。

私はたまさか、岐阜県の飛騨高山というところで勉強させてもらったんですが、ここは日本のトマト産地の中では本当に特殊な、すべての情報がオープンになっている。今も夏になると岐阜のすごい上手な人たちから、「発言者4 どうだ、今年のトマトは。岐阜の天候はこうだけれども、御殿場はこうだから、こうじゃないか」というふうな心配の電話や指導の電話をしてくださる。そのありがたみを自分が受けたこともあって、自分より次につながる若い子たちが、仕事としての農業が成り立つように支援してあげたいという気持ちでそういう組織をつくりました。

多くの方が、農業というと、朝早くから畑に出て、泥まみれになって真面目に、地道にやる仕事だ、だからいい仕事だよね、大変だけどいいよねと思うかもしれないですけども、僕はその農業という仕事をそういうふうにあまりとらえてなくて、むしろスポーツ選手とか、そういったものに近い。

例えば僕が300坪の、300坪というのは農業の1反歩とって単位なんですけれども、300坪にトマトを植えて何トン採れますかというのか、これが野球選手でいう何本ホームラン打ったかというのと同じような話なんです。僕がやっている全く暖房を使わない栽培ですと、300坪10トンを超えたあたりから神様扱い、松井とか王貞治、そういう扱いなんです。日本の平均はどのぐらいか、暖房かけないトマトですとどのぐらいかという、単位4トンというんです。だから、その10トンを超えるというのが、どれほど難しいかというのはわかっていただけだと思うんですが、ちなみに私のこの直近の栽培が、平均で9トンぐらい、その前年は実は10トンいっているんですけども、今年はちょっと天候的なものもあって、9トンちょっと超えるぐらいかなという感じでした。

すごいでしょという話ではなくて、何で僕がそんなに日本全国の夏秋トマトの平均を超えることができているかという、それはさっき言った飛騨高山とか、高い技術のところの方たちと情報共有と切磋琢磨ができるから高い成績が出せる。だったらそういうふうな御殿場、小山で新しい農業を始める子たちにも、ほかの産地のようにクローズでは

なくオープンな情報公開をして、早く高いレベルで採算ベースに乗るような農業に入ってほしいなという思いで、そういう組織をつくりました。

ここから皆さんの席を見てすごく思うんですけども、多分多くの方がお子さんがいらっしゃるぐらいの世代、お子さんが学生だとか、あるいはもうひとり立ちされたばかりぐらいかなというような世代にお見受けするんですが、どうですか、息子さんや娘さんが晩ご飯食べているときに、「農業をやろうと思うんだ」ともし言ったときに、「いいじゃない、やっpegらん」と言えるよという方、ちょっと手を挙げてもらっていいですか。いや、素晴らしいですね、ありがとうございます。

なかなか御殿場、小山は逆にリアルに農地をお持ちになっている兼業農家さんなんか聞くと、「やっぱりそれは言えないな、飯食えないだろって言っちゃうもんな」というのは、この土地で多い意見だったんですね。でも、Vege&Fru Innovation Gotemba-Oyama というような形で、御殿場市3軒、小山町1人、平均年齢40歳ぐらいでやっている組織なんですけれども、そういった数人の子たちが、僕はベンツを乗り回さなくてもいいと思うんです。

普通に子供を大学まで出してあげられる、1人以上2人、3人大学まで出してあげられて、普通に生活ができていうのを地域で見せてあげられれば、子供が農業やりたいと言ったときに、親が「それもいいかもしれないね、やっている人もいるんだから、そこに話を聞きに行っpegらん」と言えるような状況ができれば、自分たちの1つの役割を果たしたことになるのかなというイメージを持っています。まだ正直言って、農業儲かりますよって胸を張って言える段階ではないですが、どうにかこうにか、それぞれの会員が前を向いて進める段階には入ってきたかと思います。

なにぶん、農業生産、中部西部ほど御殿場、小山は好適地ではないです。気温も低いですし、難しい面もありますが、メリットもたくさんありますので、御殿場、小山ならではの農業というのが、1個ずつ開拓できたらいいとは思いますが、何かもし知事が中・西部のスーパーで御殿場産、小山町産の農産物を見かけたときに、ああ不利なところでも頑張っているな、きっとこの不利も乗り越えていくんだろなというふうに見てもらえたら、それが一番いいのかなというふうに思います。

これからもグループを広げて、農業を職業としているようなメンバーが1人でもこの地域に、御殿場、小山で増えるように努力をしていくつもりなので、各種グループの農産物を見かけましたら、手にとって味わっていただけたらうれしいなと感じています。以上で

す。

【川勝知事】 小山町の発言者3さん、素晴らしいですね。お話の中、勉強という言葉がもう10回以上出てきましたね。勉強しなくちゃいけない、勉強しています、本当に立派だと思います。

それからこういう福祉理美容というところに2年ぐらい前に乗り出されて、あっという間に理事になられたと、それはこの勉強熱心といいますか、大変だけれども、しなきゃいけないことが多過ぎるけれども、やっていて楽しいともおっしゃっているんですね。それは人を喜ばす仕事ですから、きれいにして差し上げるということですよ。

この仕事はこれから高齢社会というふうに言われますけれども、皆お世話になることがある。特に女性の方が長生きしますから、80代の後半ぐらいまで十分に生きられるようなそういう日本の社会であります。そうしたときに、ちゃんとそういう出てきてくださって、髪の毛やハンドマッサージや皮膚のケアや、場合によっては爪のケアまできちりしていただいて、きれいになったと、紅を差すことによって、何か今日一日の張りができたというふうなのがあるじゃないですか。

それから実はたまたま昨日ですけども、藤枝にある学校、5年目なんですけれども、そこで爪だとかヘアーですね、その実は日本の甲子園なんです。230くらい学校がありまして、数千人の人が出て、そして東海で選ばれて、それからまた全国で選ばれて金賞を取った子がいました。その学校では初めてだったそうです。

僕は、それぞれ金賞取った子、5位の子、7位の子がきのう知事室に報告に来られたんです。それで、いつそういうふうにかつこうことをしたいと決めたんですか言ったら、実は小学校、中学校、1人の子は幼稚園と言っていました。お母さんが美容師やっていたとか、それから絵が好きだったとか、いろんな理由があるんですけども、割と早い段階で自分はこういう仕事に就きたいと。発言者3さんはこういう仕事をすると幾つかときに決めたんですか。（「中学生です」）

ですから藤井聡太君と一緒にです。29連勝したでしょう。だから14歳で29連勝、この間佐藤名人にも勝って、間もなく羽生さんともやるとか、彼はもう高校には進学しました。なぜかというとう入学試験がないからです。中高一貫の学校に行っているから。彼にとっては高校に行こうが行くまいが関係ないんですよ。将棋の道で生きていくと決めているわけです。

ですから飯塚翔太君という走りの速い、リオで銀メダル取った人ですね、400mリレーで。彼もこの間会って話を聞いたら、中学のときに自分はもうこの陸上で行くと決めたと言っていましたよ。羽生さんとかも小学校のときに下手くそだったと。ところがどんどん、どんどん能力が出てきて、もう中学のときにはプロになっている。だから10代の前半では決めているんですね。こういう人は偉いと、本当にすばらしいと思います。

通常、普通に高校に行って、普通に恵まれていれば大学に行ったりして、そのときまで自分が何したいか考えないんです。いつ考えるかという、大学の3年生ぐらいになって、来年は卒業しなくちゃいけない、就職しなくちゃいけない、それで初めて自分が何して生きていくかと。周りに大会社に行く人が多いから、そこに勤めようかと。

だからこういう人と比べたら、発言者3さんはもう10代で、中学のときに決めていたんですから、本物ですよ。しかし、こういうのが得意だったけれども、今度は福祉ということと結びついたら、これは全く別の分野ですから、知らないことが多過ぎると。そして店にお越しくくださる方と全然違う方たちを相手にしなくちゃいけないといったことで、勉強せざるを得ないということにお気づきで、かつ、それを自分で意識しないで勉強しなくちゃいけない、勉強しなくちゃいけない、まだやることがある、まだ確立していないと。ともかくそこに行くまではしばらく応援してくださいと言っているから、もうこれは応援しなくちゃいけないというものだと思います。

一方、発言者4さんは、やっぱりお話がうまい。私は実は50になったときに農業をやりたくて、それで東京に当時は住んでいたんですけども、標高1,000mのところ、関東平野の外というのはなかなか遠いところになるわけですが、都の西北といいますか、早稲田大学だったんですよ、私。大吉の方向は都の西北というふうに決まっているわけですね。校歌が「都の西北」というんですよ。

都の西北、大吉の方向、1,000m以上のところに行って、トマトだとかキュウリだとか、嬉しくてしょうがない。それは真似事です。それから始めたんです。ところが、それをさらに真似するというか、邪魔するやつが出てきて、それはサルで、それがもう全部採っていくんですよ。ですから、そうこうしているうちに、あちらこちらへ参りまして、今こういう仕事をしているんですけども、それだけに36で高校の仕事に区切りをつけられて農業に行くと。岐阜の飛騨高山で勉強されて、夏秋の本物のトマトを「健太トマト」としてつくるんだというこの志の強さは大したものだと。

そして、その面では発言者3さんよりずっと遅いわけですよ、決めたのが。私は自分の

体とか手で身につけた技とか技術というのは、これはもうずっと一生の宝だと思っておりまして、そういういわば技芸を磨くとてもいいですか、技芸を磨く実学というのは、なるべく早い方が僕はいいと思っているんです。スポーツ、あるいは家をつくりたいとか、トマトをつくりたいとか、あるいはお魚を捕りたいとか、いろんな人がいます。そういう技芸を磨く実学の方が、今まで偏差値を上げるための英数国理社よりも下に見られたところがあると思う。これを逆転させたいなど。

これからホワイトカラーになって、つまり学歴を高くしてホワイトカラーになって、大会社に勤めるというこのパターンを静岡県から終わらせたい。もちろんそういう人もあってもいいと思います。そういう人もあってもいいけれども、そのホワイトカラーとブルーカラーと、グリーンカラーと、ブラウンカラーと、あるいはグレーカラーと、オレンジカラーと、あるいはレインボーカラーと、もう全部対等だと。ホワイトカラーの中で偉いのは、お医者さんになりたいとか、看護師さんになりたいとか、そういうホワイトカラーは偉い。つまりそういう志を10代ぐらいで立てて、そしてその方向に向かうというそういう子は、私は自分の生きる道を決めているので、失敗するかもしれないけれども、それを応援していくという時代を我々はつくっていきたいなと思っているんですよ。

そういう先頭に発言者4さん、あるいは発言者3さんが立たれていると。こういう人たちが新しい先生になって、ここでも生きていけるんだということを示していただくということがとても大事だ。

農業は、一見遅れているかのごとくに見えてきました。しかしながら、今、日本にきている留学生の数がどのぐらいいるのでしょうか。それは30万近くになりました。一時期中曽根内閣のときには10万人を入れていこう、それでも数万人だったんです。21世紀になりまして、日本から海外に行く青年は5万人台です。向こうから来る人が多い。何しに来るのでしょうか。物理学を勉強しに来るんじゃないですね。国際政治学ではありません。日本の農業とか、あるいは環境の管理だとか、日本のものづくりを学びに来るんですね。

ですから、実は日本の農業というのは、土壌のつくり方とか、あるいは品種の改良の仕方だとか、いろいろな肥料も含めて、ものすごい高いレベルなんですよ。つまり言ってみれば農業芸術品みたいなものをつくっているわけですから、「健太トマト」であって、アメラトマトじゃないんですよ。アメラトマトという1つの特殊なものも品種改良の中で出てきます。それとの差別化で「健太トマト」というのがあるわけで、ですから消費者にとっては選択肢が増えているわけですね。

今日なんか、ふじあざみ弁当、食べたことありますか。これほどうまい弁当はなかなかないですよ。だって、採りたて、もぎたてのものを出してくださる。しかも今日の水かけ菜は、発言者3さんが朝採りですよ。それをおひたしにして、ご飯の中に一部入ったりして、もうこんなにおいしいお昼ご飯は久しぶりに食べました。これは、人は朝昼晩と必ず食べなくちゃいけない。

しかも一昨年、静岡県にどれだけ来たでしょうか。1億5,300万人の観光客が来ているんです。その前は1億4,000万ですよ。つまり日本の人口より多い人が来ているんです。来たら必ず食事をします。場合によっては泊まっていけます。必ず食事をします。ですから、食というのは毎日のもので、朝昼晩のもので、これがおいしいと、実は幸せになるんですね。

ですから、その幸せにするというのは、実はおいしく、安全で、季節のものが食べられる。景色がきれいなところで食べられたということですから、私はこれから実は農業は大きくルネッサンスといいますか、新しい復活を迎えると見ております。実は静岡県、農産物だけで339品目あります、海産物入れると439あるんですが、日本一ですよ。しかし供給力が足りないんですよ、むしろ今は。だから東京に持っていくと、もっとくれないかというんです。だからおいしいものをいわば多品種少量でつくってきたところがあります。

これを一旦、どこで何が欲しいかというちゃんと市場調査をした上で、つまり今まではおいしいものだけつくってあればそれでいいという、そういう感覚の人がどうも静岡県には多かったです。流通をきっちりとらえて、消費市場をとらえて、そしてそれが中国の人とアメリカの人と東南アジアの人では嗜好が違うんですね。そういう相手先も考えながら、その市場に売れるものをやっていると、これが量産されると、もうこれは本当に平べったい言葉で言えば儲かる産業になります。

歯車みたいになって働かされてぼろぼろになると違って、これは確実に実のあるもので、少なくとも失業したって食べるものには困らないというところがあるわけでありまして。戦争でどこに疎開したか、田舎です、なぜかといったら食べるものがあるからです。

ですから、これは生きていく上での一番基礎なので、しかもここは水がきれい、景色がいい、そして農業に対する関心が高い。米はもちろんうまいし、ビールもうまいしということもあって、その意味で食の都として景色は最高級ですから、それが加わると鬼に金棒になると。金太郎にクマの友達ができるようなものですね。そういうような感じで、私は

もう発言者4さんには大いに期待しております、ちなみに春と冬は何をしているんですか。(「まとめて休みをとります」)

偉いでしょう。だから農業は農閑期と農繁期があるので、この方はこういうお話の上手な方ですから、勉強されているに違いない。ここが発言者3さんと共通しているところじゃないでしょうか。一生勉強ですけれども、こうしたときにできる福祉の勉強は、10代のときにたまたまやった勉強と違うと思いますね、本物の勉強になる。こういう体につける技術のための知識というのは、本当に生きた知識になるので、これからの勉強はこういう勉強だ。1点を争って、偏差値や入学試験の時代は、もう静岡県には一部の人を除いてそれをやってくださいと、それは別に止めません。

運動するとか、物をつくるとか、体を動かして、何か技をつけた方が、この風土に合った勉強になる。生きた勉強になる。それが今の私の正直に考えている実学といいますか、技芸を磨く実学を知性を高める学習よりももっと大事にしたいと思っておりますので、本気で発言者4さんを応援しております。どうぞこれからも頑張ってください。健太トマト万歳ということであります。

【発言者5】 私、発言者5と申します。よろしくお願ひします。紹介の方には彫刻家と美術講師というふうに紹介されておまして、改めて見ると偉そうだなと思って見ていましたけれども、彫刻家を志して頑張っている彫刻家の卵です。

実は移住者でして、小山町に移住して2年になります。今度の4月でちょうど2年になります。生まれは福島県のいわき市というところです。筑波大学に芸術科があるんですけども、そこで彫刻を勉強しまして、結婚を機に、妻が御殿場市の方で職場が決まりました、一緒に過ごす上で制作場所を探そうということになりまして、彫刻の中でも石を掘っております。石というのは音とほこりが出ますから、環境が本当に難しいんですね。建物が建っている場所ではなかなか難しいので、農村風景が広がっているような場所の方が向いているわけなんです。

それで御殿場市でどうかなと思ったんですけども、やっぱりちょっと家が多いなというところで、少し松田側の下っていくと小山町というところがありまして、小山町が何かよさそうだなという勘が私の中でありまして、知り合いもいませんで、ダメ元で行政の方に頼ってみようということで役場に行きまして、そうしたところ移住定住促進の「おやまで暮らそう課」という課があります。

そこで一から事情を説明しまして、製作をするスペースが欲しいんだけど、お金もないし、知っている人もいない、頼れる人がいないんですということを言ったら、よし、じゃ任せろというお話で、あちこち相談をして探してございまして、今現在、地元の建設会社の敷地の一部をお借りして製作することができています。

富士山の眺めがきれいな場所で、夏も涼しく、自然豊かな環境で製作したおかげなんだと思うんですけど、こちらに移住して1作目、一番最初につくった作品が賞をいただくこともあったりして、いいこと続きで、まさに小山町に育ててもらっている作家といってもいいのかなと思います。

そういう意味で移住者の視点から少しお話をできればなと思ひまして、時間もそんなにないので、言いたいことはいっぱいあるんですが、私彫刻家の傍ら、美術の講師としても勤務しています。高校と大学で教えています。高校は実は工芸の方を担当してございまして、陶芸をやったり、木工をやったり、伝統文化なんかを紹介したりしてございます。大学の方は幼児教育の方が専門で、保育士、それから幼稚園教諭を目指すような学生に造形の基礎を教えます。

先ほど知事の方から実学の方を中心にとということで、小さいころというのは音楽とか、それから図画工作、それから体育というのが柱にあるんです。それがいつの間にか5教科が主導権を握って、私も茨城にいたころに勤務していた非常勤の高校では、進学校なんですけれども、校長先生に息抜きになるように美術の時間はやらせてやってくださいよと言われまして、かちんときまして、じゃ別な先生を呼んでくださいと、心の中で叫びました。そういうようなのが一般的な認識なのかなと思うわけです。

作家を育てるといのは、どうしてもそんな育てて育つものでもないですし、育てる能力も私もないですから、もっといわゆる社会に出たときにアートとどう関わっていくかというのをもう少し取り上げて、1枚絵を部屋に飾るってこんなに豊かな時間が過ごせるんだとか、美術館に行くと、学割ってすごい得だよとか、使わないのはもったいないよとか、そういうことを高校生に行く機会があるときに行った方がいいよということをお話してございます。

そういったところで、話が長くなっちゃうのであれなので、移住者にはいろんな方がいらっしゃると思ひます。移住してきてうまくいく方もいれば、私なんかはうまくいった一人だと思ひます。そういった意味で芸術家の移住者といのは、もしかすると小山町は相性がいいのかなと。発表する場がどうしても東京寄りなので、そこへの距離感も非常にい

いですし、それから豊かな自然の中で考える時間があるというのは、作家にとって恵まれていることだと思います。

ただ、やっぱり何かないと来れないんですよ。私の場合は妻の仕事がきっかけでしたけれども、やっぱり何かをきっかけに滞在製作をすとか、イベントを開いて、例えば美大生を呼び込んできて、2週間作品をつくってもらって、小山町の富士山を背景に展覧会をすとか、そういったことを小山に滞在して、こんなまちで製作できたらいいなど。しかも日中はトマトをつくって、土をいじる、こんな喜びがあるのか。夜静かになったところに自分の製作に集中してみたいな、こういう働き方ももしかしたら提案できるかもしれない。

今いろんな働き方改革ということで、高校生、大学生に教える立場にいますけれども、私自身もいろいろ今現在模索しているところでもありますし、そういったところで今後ますます発展をしていけばいいのかなというふうに思います。以上です。

【発言者6】 発言者6と申します。よろしく願いいたします。よかったですね、何か私までの時間がなくなるんじゃないかということで最初心配していましたが、皆さんお話の中で得がたい時間ですけれども、最後にちょっといろいろなことをお話しさせていただきたいと思います。

私、今回は御厨おもてなし倶楽部の代表、そして株式会社エフエム御殿場ということでこの場に座らせていただいておりますが、いろんなことを実はさせていただいております。今からちょうど三十うん年前と言うと年がわかるので、実は主人がレースの関係の仕事をしていたということで、都内からこちらのスピードウェイのすぐ近くにあるまちに引っ越そうよということで、東京は高いので来ました。

来た途端に、もう本当に私はこのまちが大好きになりまして、そこで子供を2人産んで育てて、ちょうど手が離れて、今はもう好きなことをやらせてもらっているわけなんですけれども、そもそもこの御厨おもてなし倶楽部って何なのと申しますと、これは本当に市民と学生のボランティアでつくり上げるおもてなし倶楽部、おもてなし団体です。

なぜこれを始めたかとい申しますと、実はこの御厨おもてなし倶楽部というのは、今から5年ほど前に発足したんですけれども、その当時、富士山が世界文化遺産になろうよということで、みんなが一生懸命になっているときに、これ絶対そうなるなど。そうするとたくさんこのまちに富士山を見に海外の人も来てくれるだろうと思ったんです。

ところが、いざその海外から来る人、もしくは御殿場を知らないで、御殿場駅に旅行者

として、観光客としてその目線で立ってみたときに、正直言ってこのまちって不親切なまちだなと思いました。なぜならば、行きたいところに、まず行きたいところがどこにあるのかもわからない、行く方法がわからない、要するに案内がしっかりとしてなかったんですね。それでどこで行くことを聞いたらいいのかというのが、その人もいない。

そんなときに、だったならば、これを通常なら、観光協会とか御殿場市さんやってくださいよと言うかもしれない。でもそうじゃなくて、これは本当にそういう人たちのために、高いお金を払って、この御殿場や小山に来ていただく海外のお客様、日本のお客様が、ああ、このまちに来てよかったな、またこのまち来たいよねというふうに思ってもらえるためには、これは仕事としてではなくて、そこに住んでいる住民たちがおもてなしの気持ちを持って、なぜならば駅前というのは家で言うとお玄関なわけです。

その玄関のところでお客様が来ても、こんにちはも言えない、玄関のところに靴が散らかっていて、砂だらけになっている、それじゃ来た方は気持ちよくないじゃないですか。それと全く同じ意味で、駅前が私はこのまちの玄関だと思っているんですね。ですから駅前に降り立ったときに、みんな町中の人御挨拶ができて、こんにちはと声かけができる。そしてせっかく来てくださったお客様がいい思い出を持って、また来たいよと思えるような情報を提供する、そういうことができないかなと思って作り始めたのが、この御厨おもてなし倶楽部です。

その中に御殿場コンシェルジュというのを発足したんですね。この御殿場コンシェルジュというのは、御殿場や小山の住民の皆さん、それから学生たちで作り上げています。その中には英語とか外国語がしゃべれる大人の方々、学生の子たち、それ以外に英語も全然しゃべれない、日本語しかしゃべれないよという方たちも実はいるんですね。

今、もてなしアクションというそういう御殿場コンシェルジュで作り上げた組織で、毎年御殿場の駅前で山の日、8月11日から9日間だけ、駅前で市民の私たちとボランティアでテントを張って、観光案内所をつくって、そして駅前に降りてくる皆さんに、例えば登山の方には、気をつけて行ってくださいよ、もうすぐ登山バスが出ますよとか、もしくは山中湖に行きたい方はこのバスに乗って行ってください、お腹が空いた方にはここでおいしいご飯が食べられますよというのを御案内をさせていただいているんです。

なぜこれを8月の11日から9日間しかやらないかといいますと、すべてみんなボランティアだからです。つまり大人の皆さんは貴重なお盆休みをこのボランティア活動に充ててくださいっています。これは本当にありがたいことだなと思っているんですけども、この

おもてなしアクションという活動が、だんだん年々目的が変わってきました。

最初は、富士山の世界文化遺産のために対応するおもてなしをやろうねということで、タイトルも富士山の登下山者のためのおもてなしアクション、ですから富士登山に向けての啓蒙をお伝えしたりとか、富士登山のためのバス案内、もしくは降りてきて大砂走りで砂だらけになった皆さんが、その後再び荷物をおろして御殿場市内や小山町内を旅してもらえるようにということで、駅前に砂を落とす足洗い場をつくったりというそういうことをしていたんです。

そして、世界文化遺産になりました。もちろん人は増えました。でも今度、去年、一昨年あたりから、またその目標が変わってきたんです。今度はこのまちがオリンピックとして何か関わるかもしれないと思い始めたんです。もしかしたら東京で行われるオリンピックだけれども、海外から来る人は、オリンピックを見たら、必ずきつとこの富士山を見に寄ってくれるだろう。そしてその後京都とかに行くんじゃないかなと思うと、絶対この御殿場、小山というのは、結果として富士スピードウェイがサイクリングのオリンピック会場になりましたけれども、そうじゃなかったとしても、絶対このまちに人は来るだろうというふうに思って、ちょっと方向性を変えてきました。

そこで今、市民と学生で市民の方が大体30代から80代までの男女が40名ぐらい、そして学生は去年168名の学生が参加してくださいました。それは地元だけの学生だけじゃないです。地元の高校生、中学校、小学校も参加してくれますし、あとは沼津のバイリンガルの加藤学園暁秀の生徒たちが中心となって英語はもうやってくれます。

それから静岡の方からとか東京の方からも今では単発なんですけれども、皆さん参加してくるようになってきているんですね。そんな子供たちと、いつもこの活動をするときに考えているのは、インバウンド、インバウンドというけれども、一体インバウンドってどういうことなのというのが1つ、それからそのインバウンドというのは、誰の目線で、誰のためにおもてなしを行うことなんですか。そしてもう1つは、観光客に喜ばれる受け入れって一体どういうものなんだろう。市民ができるおもてなしによって、多くの住民、学生たちが参加することの必要性というよりも、この価値が最近見えてきました。

実はガイドをするというと、先ほどもちょっとお話ししていましたがけれども、いろんな方がガイドを目指してくださいます。ただ大人の方は、外国語がしゃべれるイコールガイドができると思っている方がとても多いんですね、観光ガイドができると。

でも実はガイドに最も必要な要素というのは語学力、これは日本語でももちろんです。

日本語、外国語、次に知識力、これは交通のアクセスとか、文化とか、そのまちの歴史とか、今ここにいらっしゃった皆さんのような、おいしいトマトがあるんですよ、こういうボランティアの活動している方がいらっしゃるんですよ、こういう芸術がこのまちに生まれているんですよと、そういうこの住んでいるまちの知識が必要なんです。

そしてその次に洞察力、もしくは気配りが必要になります。相手の方が見知らぬ日本のこんな田舎のまちに何十万も使って海外から来てくださった方が右往左往しています。目の前でこの方たちは今何をしようとしているんだろうか。あっ荷物を置いていきたいのにコインロッカーがないんだよねとか、きっと疲れているのに休む場所がないんだよねとか、ごみ捨てたいんだけど、ごみ捨て場がないんだよね、そういうことをとっさに判断して声かけをすることというのがガイドにはとっても必要になってくるんです。

そして、そのときに判断力が必要です。外国人の方が持っているごみを、例えばかわいそうだからと、駅前の私たちが1人のごみをもらってしまったら、次から次へとみんながごみを持ってきてしまう。このときにどういう対応をとったらいいんだろうかという判断力も大切です。そしてあと行動力、案内、動く、面倒くさがらない、これがあって初めておもてなしの観光ガイドができます。

これを実は5年間ずっとやり続けてきましたが、今私はとっても嬉しいのは、このまちに学生のリーダーが育ってきているということです。5年前に始めたときに中学生として参加してくれた子たちが、みんな毎年参加してくれるようになったんですね。そして今168名という学生になりましたけれども、その子たちに、例えば駅前の9日間のときに、大人はサポートだけにしています。

子どもたちの経験者にみんなリーダーになってもらって、あなたは今日このグループをお願いね、あなたはあちらをお願いねって、しかもみんな違う学校から集まってきている子どもたちなんですね。最初は、暁秀の子たちは英語がすごい得意だけど、私はしゃべれないからやだと言う地元の高校生もいました。だけど、学生たちってすごくて、わからなかったら同い年のあの子に英語の伝え方聞いておいでというサポートをします。そうすると、子供たち同士がどんどんコミュニケーションを持って、9日間経つと、みんなが片言でも一生懸命観光ガイドを英語でできるようになるんですね。

私は英語全然しゃべれないんです、実は。皆さんすごくしゃべれると思っていらっしゃるんですが、全然しゃべれない。でも、先ほど発言者2さんがおっしゃったように、言葉が多少片言でも、気持ちがあって、本当に相手のことを思ってあげられれば、絶対それは

伝わるということをお子孫たちが学習してくれています。

ですから、これはこれからオリンピックになるということで、ただ本気で今から準備しないとイケない。オリンピックのときに、できれば地元の学生たちが中心となっておもてなし、迎え入れができるまちとなれば、きつこの御殿場市と小山町というのはものすごいエネルギーのあるまちとして映るんじゃないかなと思っています。

それからもう1つ、富士山GOGOエフエムというラジオ局、86.37Hz、これはおもてなし倶楽部の発足と同時に立ち上がりました。このGOGOエフエムというのは、実は何でGOGOというかということ、御殿場のG、小山のOでGOGOエフエムなんです。これがよく、例えば行政が入っているんじゃないかとか、三セクなんじゃないのとか、いろいろ言われるんですが、富士山GOGOエフエムというのは全くの民間で作り上げました。民間のお金を集めて、市民がこのまちのための情報発信をしていく。

だから今、富士山GOGOエフエムで発信しているのは、今日ここで皆さんがおっしゃったような内容をラジオを通じて皆さんにお伝えしているんですが、先ほどのおもてなしアクションで気づいたことがあります。海外からのお客様には、来る前にこのまちの情報を知ってもらわなきゃもったいないなと思ったんです。御殿場に来たり、小山町に来てからだったら、もう時間も足りないし、どこにもいいところ行かないまま、みんな帰ってっちゃうんですね。

なので、去年からGTQという御殿場トレジャークレスト、御殿場の魅力探しをしましょう、宝物探しをしましょうということで、インターンシップで去年は台湾から大学生の子を1カ月半呼んだんです。その大学生の子に御殿場に在住してもらって、毎日いろんなところを見て回って、私たちが素敵だと思うことと、海外の人たちが見て素敵だと思うことと、実は違うんですね。なので、外国人の方から見たこのまちの魅力をフェイスブックとインスタグラムで英語で発信してもらいました、写真とムービーで。

そしてさらに富士山GOGOエフエムはインターネット放送ができるので、そのインターンシップの外国人の男の子に、台湾の子だったんですけども、台湾語で台湾の人に向けての時間帯で放送してもらおうことにしたんです。だって、私たち日本人が海外に行って、海外から私たちに日本語でレポートしてくれたら、とっても聞きやすいじゃないですか。なので、インターンシップの子には自分の母国語で情報発信する。

それを今年は、実は県のツーリズムビューローさんも非常に協力していただきまして、カナダ人の女の子なんですけど、イタリア語と英語とフランス語ができる女の子を呼ぼうと

思っています。そうするとこの3カ国語でそれぞれこのまちの魅力を発信してもらおう。そして去年来た台湾人の子もまた来たいということで、御殿場、小山に来てからではなく、その前にいかに情報を伝えるかということ、今私たちはこのGOGOエフエムを使ってやっています。そしてその人たちが御殿場駅前に降り立ったときには、学生が中心となっておもてなしをする。そういうまちづくりができたときに、これは子どもたちの教育にも私はとても役立つことだなと思って、今とても楽しませていただいていますので、これを今後とも続けていきたいと思っています。

【川勝知事】 お二人に共通しているのは県外から来られたことですね。発言者5さんは元々は福島県のお生まれだったと、そして発言者6さんは東京から御主人との関わりでこっちに来られたということなんですが、やっぱり外から見た人が気づく小山町や御殿場の魅力というのはすごいなということを圧倒されながら聞いていて、私はすごい人があるなと思って聞いておりました。

まず発言者5さん、今お幾つですか。（「31です」）この4月で2年になるとおっしゃったので、「30になったら静岡県」、言ったでしょう。偶々そのころになると、身を固めるときですからね。たまたま奥様がこちらでお仕事を得られて、そしてこっちに来られて、御殿場と小山町を見て、御殿場は人が多過ぎると、人家が多過ぎるといので小山町に来られたということで、そして今こちらで自然に感化されてつくった石の彫刻が賞をとったというんですから、もうはっきり聞きました、自分は小山町に育てられたと。一生忘れないと思いますよ、この言葉を私は。やがて立派になられたときに、この方を育てたのは小山町であったということですね。

そして今は学校で教えていらっしゃるということですが、私は本当に共感するところがあるんですよ。つまり英数国理社という主要5科目以外の例えば図工とか体育とか保健とか、あるいは美術とか音楽、そういうやつですね。それは何となく二次的だというふうに思う風潮がずっとありました。これに対して腹立った人がいる。

私は今、これ本当に声を大きくして言うべきときが来たというふうに思っておりまして、こういう感性を持った先生が学校で本気で教えてくださっていて、こうして身を立っている先生がいらっしゃるから、必ずしもそれで身を立えられるかどうかわかりませんが、美術を見る目、あるいはきれいなものに対して開かれる感性を今つくってくださっているの、ものすごく財産になると思いますよ。

部屋に入って、普通の人は、あっ1輪のお花が生けてあるということに気づく人と気づかない人、人類は2つに分かれます。だけど、気づく人はたくさんいらっしゃるんですよ。そして気づくようになると人生が楽しくなりますし、そういうことをやってくださっているんですね。

これはもうぜひ小山が、やがてこういう芸術家が来たらいいようなまちにできますよとおっしゃってくださった。一定期間こちらで、恐らく発言者5さんのお友達なんかもいらっしゃるでしょうから、その人たちを上手にお招きして、そしてやがて芸術家村みたいな、そうしたものをつくってあげれば、もうそれ自体が財産ですし、移住者が増えてくるし、もちろん芸術家の方たち、作家の方にとっては大きな市場が首都圏にございますから、場所もいいということで、この提案はすごくいいなと思いましたね。

そして発言者6さんも本当にパワフルで何も言うことはないですね、すごいなど。先見の明を持ってやっていたらっしゃるので、こういう人がいるということは御殿場、小山、GOGOなんていうのはゴーゴーという感じだと思ったんですが、御殿場のGと小山のOだということですからね、それをゴーゴーと引っ掛けていられるわけですから、働いている方たちは御殿場のGと小山のOでやっているというつもりでいらっしゃるから、相当気合いが入ってくれるし、地元のためにやっているという気持ちが入っているんじゃないかと思えます。

それからまた富士山から今度はオリンピックだと。オリンピックのときには東京オリンピックだけれども、必ずこちらにいらっしゃるというそういう先を見る目というんですかね、富士山は世界文化遺産になりました。そしてそれがきっかけになって、実は富士山が世界文化遺産になったのは平成25年の6月22日のことです。今、平成30年の2月でしょう。何か月たちましたかね。丸4年と8カ月ですから56カ月で世界クラスになった数は67件です。ですから1カ月に1件以上降ってきているんですね。

それから、東京オリンピック関係でいいますと、御承知かもしれませんが、ロンドンオリンピックのときに文化プログラムというのを立ち上げられたんですよ。オリンピック憲章を読まれますと、これは「スポーツと文化の平和の祭典」というふううたわれているんです。それを文字どおり実行したのが2012年のロンドンオリンピックで、イギリス全土に文化プログラム、それぞれのまちや都市のいろんなものを展示したんですね。そうすると見てないということで翌年も来られて、オリンピックの年よりも、その翌年に来られる観光客の方が多かったということで、それを私たちは知りましたので、知事会で提案しま

したら、北海道の知事さん、東北の知事さん、九州の知事さん、皆喜ばれまして文化プログラムを立ち上げるということになりまして、全国知事会の決議事項になって、今は政府の政策になっているんですよ。

ですから、東京オリンピック・パラリンピックの2020年には各地域でいろんなことが繰り広げられます。それはいろんなところに来られるということですから、どのように準備をしているか、おもてなしをするかという戦略戦術をきちっと立てている方がいいですよ。だからここは地の利がありますよね。天の時が熟した、人の輪もある。あとはどのようにそれを上手に戦略や戦術に結びつけて、人々がこちらにお越しになるようにするか。

そうすると、言葉ができない人がいらっしゃいますから、当然、そうすると目で見てすぐわかるようにしなくちゃいけない。それは標識だとか、案内だとか、それから目で見て不愉快なものはなるべくやめましょうということで、野立ての汚い看板だとか、そうしたものは規制しましょうとか、あるいはちょっとお花プランターを置きましょうとか、いろんなことがあるかと思えますけれども、そうしたことを通じて、おもてなしをしゃべらなくても、説明しなくてもできるようにするということをまずしながら、今度はわかる人にはちゃんとわかった上で案内ができるようにしておくという、そういう時を迎えて、言ってみれば今、小山、御殿場は静岡県の一部というよりも日本の伸びしろのすごく出てくる、何と申しますか、中心的な位置に来たんじゃないですか。

首都圏と足柄山ないし箱根、富士山より西のところの結節点ですからね。結節点というか、神奈川県と静岡県の間という両方の中心から離れているみたいですが、中間というのを中央と言い換えれば、両方に役に立つようにできる場所だということで、中心性が出てきているんじゃないかということで、そういうふうに見立てて、いろいろとまちで作戦を立てるというときに、こういう外の目を持っている人はすごく役に立つと思います。

そういうことで、もちろん口を満たさなくちゃいけないので、それはもちろん食事ですから、それから見た目の景観ですから、そしてまたそれをやっている若い青年たち、女性も男性も老若男女、皆それなりに初めからここは世界の中心の1つというそういう場所にたまたま自分たちはこの時期に居合わせたんだということで、これがレガシーとなりますと、そのうちリピーターが増えてくる。一過性に終わらせないで、これを後の世代に引き継がれていくようにするという戦略戦術を立てるべきだ。

私どもはそういう計画を持っていますので、そういう考え方を持っていますので、具体

的なプランを出されれば、それを応援します。ですから今いいチャンスですね。来年はワールドカップ、翌年はオリンピック・パラリンピック、そして小山町で言えば富士山、皆さん御存じでしょう。元々ここをゴールにするということはなかったんです。

ちなみにベロドロームのときには運動しました、来てくださいと。すばらしいトラックのスタジアムがありますということで相当運動しました。だけど、この富士スピードウェイは1つの運動もしていません。誰が決めたんでしょうか。サイクリスト自身です。富士山に向かって走りたいと言ったわけですよ。それでここに来たんですから、運動しないで来たんですよ。だから知らぬうちに私たちは世界の中心になっちゃったわけです。皆さん、おめでとうございます。

アウトレットもあるし、ホテルもどんどんつくらないと間に合わないじゃないかと。それもあんまり汚くならないように、私はやっぱり小山町というのは森林の豊かな緑のまちですから、あんまり建物を東京のこんなものより、森の中に沈むというか、一番建物を一番高い樹木の大きさにすると、森に沈むまちだとか、そして森に手を入れているでしょう。だから手を入れたものは、こういうお花と一緒に庭なんですよ。だから野生の自然じゃなくて、ガーデンなんですね、大きな大きなガーデンだと思えばいい。

だからこれはフォレストガーデンです。フラワーガーデンだとか、小さなプランターのガーデンだとかありますが、箱庭のようなガーデンもあります。しかしフォレスト全体がガーデン。そしてもう御殿場市長さんなんかはガーデンシティとうたっているでしょう。うたっていますよ。ガーデンは、こういう手を入れた花壇と、それからその向こうに見える富士山だとか、あるいは足柄山だとか、山があるじゃないですか、それは借景でしょう。

借景というのは庭の一部なんですよ。手を入れてないものを庭として見させるから、それを御殿場市長は富士山を借景としてガーデンシティと言っている。しかもそれをエコガーデンシティと言っている。エコというのは物を無駄にしない。生物が生きている、そこを上手に活用しながら、例えばバイオマスとか、そういうものを上手に利用しながらエネルギーを自分たちで自給して、そしてリサイクルとか、リユースとか、リデュースとか、言っていますけれども、そうしたものをもたないという気持ちで使っていて、汚さない。お互いに生かし合っている、自然も生かし、自然に生かされるという関係をつくって行って、全体として手入れの行き届いたガーデンだと。同じことを小山町長もなさっておられます。

ですから全体としてこの富士山麓のガーデンシティですよ、ガーデンタウンですね。こ

うすると、もうこれは最高のガーデンだと思う。富士山に勝る借景はないですよ。しかも四季折々違いますから。ですからここはやっぱり国土の統合のシンボルが富士山ですから、ここは感性の鋭い発言者5さんが来られた十分な理由があった。富士スピードウェイにここが来て御主人が来られて、御主人をはるかに抜くスピードで、この良さをわかっている発言者6さんみたいな人が出てきて、誠にこれはいいお話を聞いて感じ入ったというわけでございます。

【傍聴者1】 小山町の傍聴者1といいます。質問というより、私からの要望なんですけれども、最近待機児童については騒がれていますけれども、その前に2つ言いたいことがあるんですけれども、1つは待機児童についてなんですけれども、待機児童について騒がれているのは、でも若いお母さんたちの気持ちだけが騒がれていて、子ども自身の気持ちというのが表れてないんですね。

子どもというのは保育園に入れば友達もいますけれども、どちらかというと私からは3歳まではせめて親が見てあげたい、愛情を持って育ててあげた方が、私はいいと思うんですね。それがもう0歳から1歳から預けられた子どもというのは、大人になってからどういう人間になるのか、人格形成についてすごく不安を持っています。

それともう1つは、若い女性の健康についてなんですけれども、最近の若い子は、私たちが若いころは、年寄りから腰を冷やすとか、産後の肥立ちが悪くなるとか、よくうるさく言われたんですけれども、今の若い子というのは、薄い格好をしていて、不妊症というのはそういうところから来ているのかなと思うことがよくあります。

それと出産した後の休養というんですか、それを私たちのころというのは、子どもを産んだら1カ月は絶対動くな、トイレ以外は絶対動くなと言われて、産後の肥立ちが悪くなるとさんざん言われたんですね。今の若い女の人たちは、そういう核家族もあったり、年寄りと話をすることもなかったりするせいもあるんでしょうけれども、今そういう休むということをしない女の方が多過ぎるので、出産して退院したその次から仕事に行くなんて、そういう話を聞くと、自殺行為だなと思います。私たちのころには、本当に産後の肥立ちが悪くなるとよく言われましたけれども、これから若い女の子たちがそういう無理をしないと、体のことがとても心配です。

そういうことをもっと世間が若い女の子たちに言ってほしいし、また若い女の子たちも子どもを見てもらう人がいない家族が多いので、やはり無理して動き出しちゃうのかなと

思うんですね。ただ、今は一人暮らしのお年寄りなんか、ヘルパーさんとか、お弁当を配達する、そういうことができますけれども、そういう若い女の子たち、出産した女の子たちのことも、そういう点では世間でもっと助けてあげて、ヘルパーを派遣するとか、お弁当の宅配をするとか、もっとそういう若い女性たちにも目を配ってあげてほしいと思います。またそういうことを静岡から発信して、全国に広めていただきたいと思います。以上です。

【川勝知事】 賛成ですよ。まず待機児童というのは、保育園の空きを待つという意味で待機と言われていますけれども、実際、今おっしゃったように、傍聴者1さんが言われたように、待機しているのは子どもがお母さん、お父さんが迎えに来るのを待っている、そういう意味でとるべきだと。だから常に一緒にいなくちゃいかんというので、それこそ昔はサラリーマンとして工場に働きに行ったり会社に出るのではなくて、家で商売したり、農業したりしているわけでしょう。ですからおんぶされたり、抱っこされたりして、買い物に来た人が一緒にあやしたりすると。だから生活の中で一緒に育てていますよね。

今、こういう役場だとか普通の工場だと、家に置いておかなくちゃいけない。それは世話ができないから保育園にということになってはいますが、元に戻したらどうかと。私は稚児を抱いていらっしやいと。泣くじゃないかと、当たり前じゃないかと、だから皆であやせばいいというところから始まったんですが、それも5年ぐらいかかりました、静岡県庁の中に児童預かり所をつくるのに、だからなかなか大変です。

それからもう1つ、若いお母さんのさらに上の世代の方の御意見を社会が共有することが大事だと。言ってみればお母さん経験者ですね。そういうことは核家族化の中で難しいし、東京はとて難しい。発言者2さんのように3世代一緒に住んでいらっしやるというのは、東京ではほとんどないんじゃないでしょうか。まだこちらはできるでしょう。

ですからおばあちゃん、おじいちゃんに預けておくが一番安心ですよ、仮に共稼ぎで出るにしてもね。それがかわいがるので、愛情がどんどん、どんどん心の中に蓄積されて、優しい子になるという面があるので、そういうことができる地域の方がいいというふうに価値観を変えていく必要があるだろうというふうに思いますし、そしてまた産後の肥立ちについてのそういう経験的な知恵というのをどういうふうにして市や町や、我々県が一緒になってお母さんの体を大事にする、そういうお考えを聞かせていただきましてありがとうございました。

【傍聴者2】 御殿場から来ました傍聴者2と申します。私、初めて知事さんの立候補のときのニュースをテレビで見まして、学者さんであるということを知りました。とても難しかったです、先生の本は。でも一生懸命読みました。比較文化の中では本当にちょっと苦労しながら読んだんですが、知事の素晴らしさを見たような気もしました。

もう1つ、私が言いたいのは、御殿場、小山にはオスプレイが来ます。このオスプレイというのは戦争です。私は戦争は絶対反対です。どんなに小さな戦争でも反対します。ところがもうこれは組み込まれてしまって、仕方がないです。そして沖縄というところの海兵隊が御殿場には来ます。この海兵隊というものが来るのは仕方がないです、止められない。それならば、沖縄の皆さんを助けるには、オスプレイをどんどんこちらへ呼ぶよりほかないですよ。ぜひ沖縄の皆さんの基地の負担の軽減、沖縄と静岡県が仲良くする、これをぜひ知事さんにはお願いしたいと思います。以上です。

【川勝知事】 難しい本を読んでいただきましてありがとうございます。ともかくずっと学問をしてみたりまして、経済の歴史、経済史というものを専門にしてみたりまして、50歳まで早稲田大学で政治経済学部の経済学科で教えていたということです。その後、京都の国際日本文化研究センターという日本についての学際的、総合的、国際的な世界トップクラスの研究センター、その後、日本を専門にすると、日本を歴史的、世界史的にしっかりと勉強するというので10年勉強いたしまして、そして今こちらで静岡を勉強しています。

ですから、どこに行っても勉強ということで、いわば現場学のような、つまり書齋学と現場学というのがあるとしますと、書齋学からだんだん、だんだんと現場学に軸足を移してきたと。現場がこれですから、これはもちろん意見の場ですけれども、それぞれ生活されたり、あるいは産業をされたり、あるいはいろんな自然災害なんかと関わるようなインフラの整備、福祉の整備、原発の問題があります。そうした現場をどのように安全にしていくかというのが僕の仕事です。

皆さんと一緒にやっていく仕事ではありますが、オスプレイ、これは突然向こうから来まして、そしてどうするか、難しい。日本人がだれも運転できないまま日本に、それが本当に安全かどうかかわからないまま、日本に導入され、そしてこちらに飛来をするということになっていますね。沖縄に日本全体の75%の基地が集中していると。そのことに対する傍

聴者2さんの沖縄県民と心をともしるといふそういう御指摘には同感です。

さて、その次どうするかですね。これはいろんな考え方があると思いますが、例えばこちらにいらっしゃる小山町長さんと御殿場市長さんでは、例えば小山町長さんはオスプレイに乗られた、御殿場市長さんはまた全然違うスタンスをとっておられます。だけど、共通しているのは、いかにここの地域を安全にするかということだと思いますよ。そのために自分で乗ってみるとか、あるいは一旦何も約束なく、突然来たりすることに対して猛然と抗議されるという態度もあります。

こういう全く違う態度がありますように、この問題は、あなたも言われましたように、地位協定もありますから、我々が口出しができない。日本を守るためにアメリカ軍がいる、軍属に対してもいろんな犯罪行為をしても、それを我々が裁くことができないというようなそういう地位協定になって、そういう法律的な制約の中で日米関係があるという現実を踏まえて、どうしたらいいか。

すぐに結論は出ませんが、オスプレイ全部こちらに持ってくるということを仮にあなたが立候補して言われたら、果たして御殿場市民が賛成するかどうか、どうでしょう、難しいと思いますよ。ですからいろんな意見の人がいらっしゃって、それをどう束ねていくかということは、本当に困難な仕事ですが、原点は戦争をいかにしないようにするかということですね。

ですからこれさえ共通の認識があつて、戦争しないようにするにどうしたらいいかということをやする戦術はいろいろとあるということで、私はこちらに沖縄にあるオスプレイを全部持ってくることに賛成しかねます。かといって、沖縄に全部それが配備されるということにも賛成しかねます。また今の普天間の基地を今ある埋め立てのところを持っていくということにも決して賛成はしておりません。ですから、それぞれ一人一人違う意見を持っているかと思いますが、それが全部、誰もが自由に言えるということが大事じゃないかと思いますよ。

我々の国はどちらを言っても、お縄になったり、射殺されたりしなくて済むんですよ。この自由というのが妨げられることがあつてはならないということも、またあわせて大事だと思いますね。主権在民です。

そしていってみれば、民主主義の基礎は、今明治150年でしょう。明治元年に何と言われたか、五箇条の御誓文が出ました。冒頭に何とあつたか。「広く会議を興し万機公論に決すべし」、全部いろいろ議論を言いなさい。「上下心を一にして、さかんに経綸を行うべし」、

同じように役所をやっている人も、民間の人も、心を一つにして、盛んにいろいろ議論しなさいと。

「官武一途庶民に至るまで、おのおのその志を遂げ、人心をして倦まざらしめんことを要す」、これは第3条です。あきないように、皆一生懸命、志が遂げられるように、それぞれがやりたいことがやれるような関係をやっぺいこう。

そして4番目、「旧来の陋習を破り、天地の公道に基づくべし」、従来のやり方だけに固執しているとだめだと。天と地の公道にきっちり基づいているかどうか、これが大事だと。

そして第5条は、「広く智識を世界に求め、大いに皇基を振起すべし」と、こうありますが、「万機公論に決すべし」というのが一番最初ですよ。だから押しつけることはできない。しかし多数決には従うという原理があります。しかし少数者は大事にしくちやいけないと。この万機公論の一端を、我々、今ここでやっぺているんじゃないかというふうに思いません。

いずれにしましても、傍聴者2さんの考え方は非常に一瞬どうなるかと、オスプレイは絶対許さないとされるかと、オスプレイを全部引き受けると言われたから、偉い人だなと思っぺましたよ。ありがとうございました。